

<第37回調査>

2012年6月25日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2012年6月12日(火)13:00~2012年6月19日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は534件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

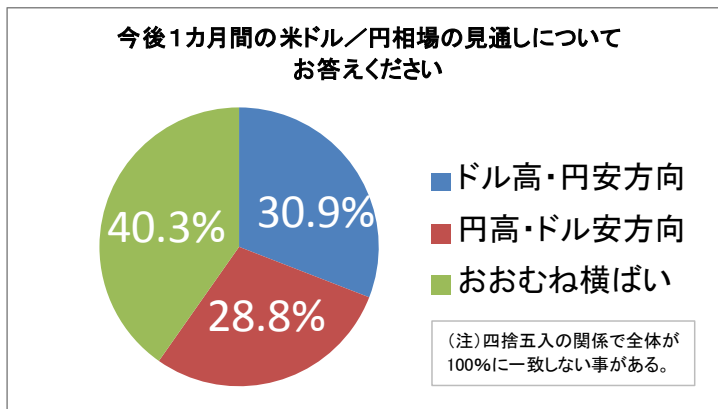
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第37回調査結果略報：ユーロ/円弱気度合いが半減】

### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

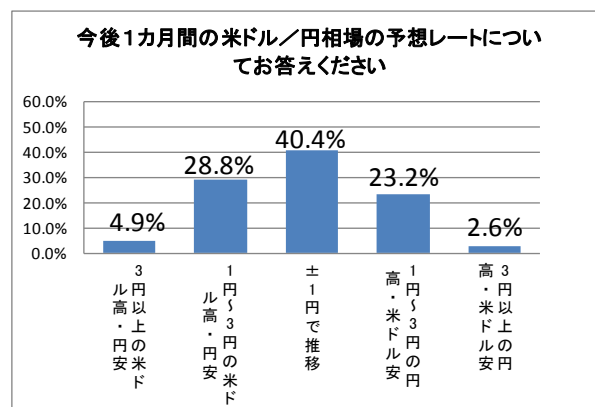
「今後1カ月間のドル円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が30.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は28.8%となった。この結果、「ドル/円予想DI」は+2.1%ポイントとなり、小幅ながらドル高・円安予想に転じた。もっとも、今回の投票でも、最も高い回答割合を集めたのは「おおむね横ばい(40.3%)」であった。調査期間中のドル円相場は78.60円から79.73円という1円程度の値動きにとどまった。市場の関心が欧州情勢にシフトする中、ドル円相場については、今後しばらくは膠着状態から抜け出せず、同水準でのみみ合いが続くと見ているFX投資家が多いようだ。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が40.4%と最も多く、次いで「1円～3円のドル高・円安」が28.8%、「1円～3円の円高・ドル安」が23.2%、「3円以上のドル高・円安」が4.9%、「3円以上の円高・ドル安」が2.6%の順となっており、ヒストグラムの形状と問1の回答結果と整合的である。ドル高・円安にせよ円高・ドル安にせよ、値動きは3円以内に収まると予想した割合は合算で92.4%にのぼる。多くのFX投資家の今後1カ月におけるドル円相場の想定レンジは76-82円という事になり、戦後最安値(75.32円)や年初来高値(84.17円)の更新を予想する声はほとんどない事になる。



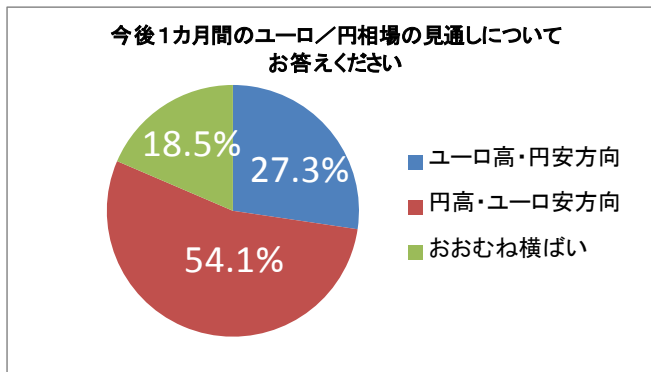
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

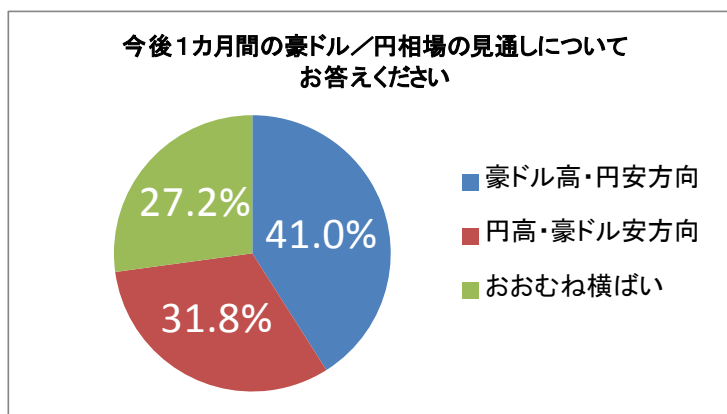
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が27.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が54.1%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は▲26.8%ポイントとなり、ユーロ弱気予想は維持したものの、弱気度合いは大きく縮小した(前回DIは過去最低の▲59.8%ポイント)。調査期間中のユーロ円相場は98.71円から100.84円のレンジで比較的堅調に推移した。調査期間中に行われたギリシャの再選挙で、国際支援継続のための緊縮策維持を支持する政党が勝利したことから同国のユーロ離脱懸念がひとまず後退した事がDIのマイナス幅縮小につながったものと思われる。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が41.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は31.8%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+9.2%ポイントとなり、過去最低DI(▲34.8%ポイント)を記録して豪ドル弱気に傾いた前回調査から再び豪ドル強気予想に転じた。調査期間中の豪ドル円相場は78.08円から80.64円のレンジでおおむね堅調に推移した。米追加緩和観測の高まりやギリシャのユーロ離脱懸念がひとまず後退した事などから豪ドル強気予想が復活したと見られるが、欧州情勢に対する不安はくすぶり続けており、豪州でも追加利下げの可能性が排除できないことから、その強気度合いは控えめなものにとどまった。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

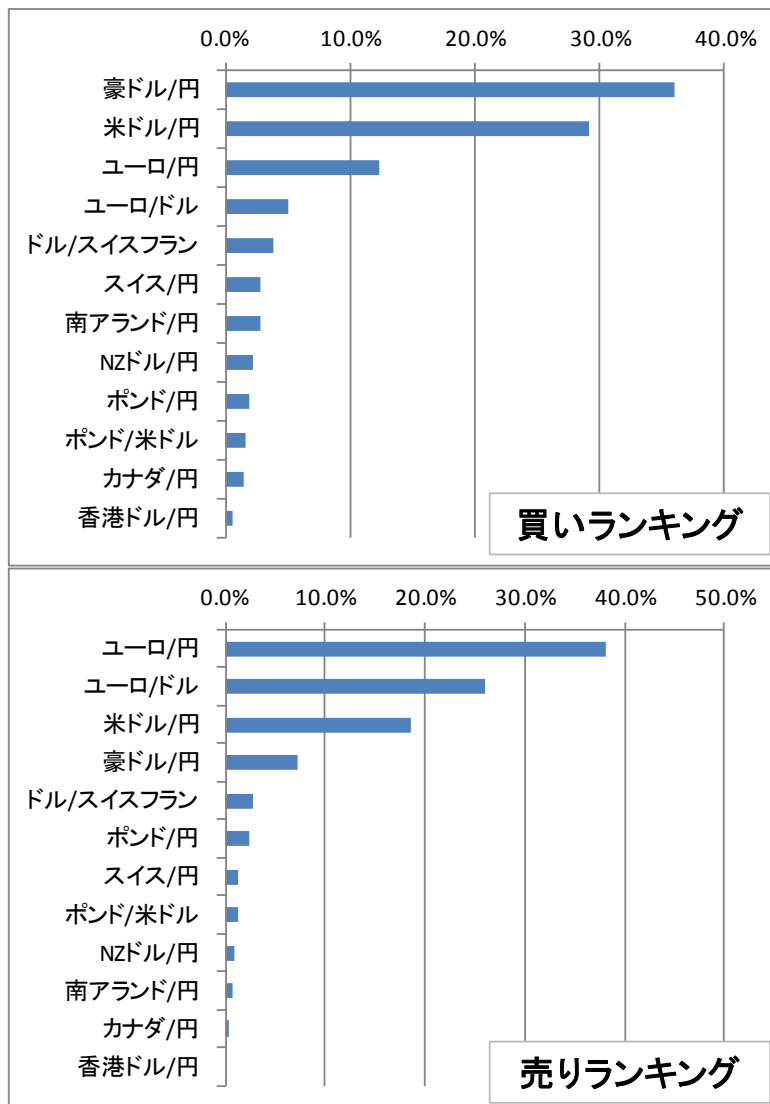


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください**

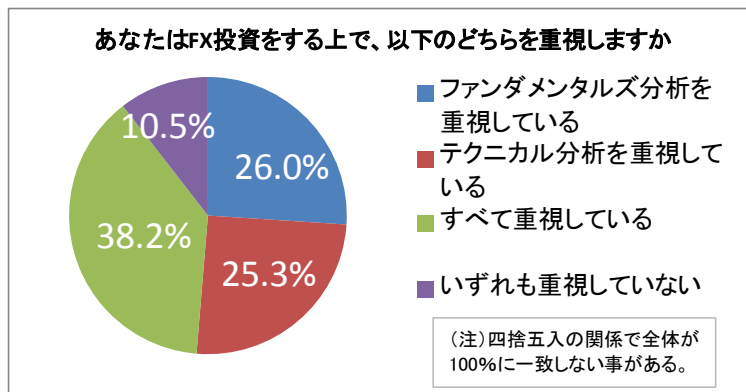
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(36.0%)、2位ドル円(29.2%)、以下3位ユーロ円(12.4%)、4位ユーロドル(5.1%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(38.2%)、2位ユーロドル(26.0%)、3位ドル円(18.5%)、4位豪ドル円(7.3%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、豪ドル円が第33回調査以来4ヶ月ぶりに1位の座に返り咲いた。もっとも、回答割合自体は例月の1位に比べるとやや低く、ドル円の人気低下による「繰上げ1位」の可能性も感じられる。一方、「売り」で注目の通貨ペアについてはユーロ円が1位の座をキープしたが、その回答割合は前回調査の44.0%から低下した。問3の結果でも示されたように、FX投資家のユーロ弱気姿勢は徐々にほぐれ始めているようだ。今後、FX投資家の予想がユーロ強気に転じるか否かを計る意味でも、ギリシャやスペインをはじめとする欧州の動向が注目される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

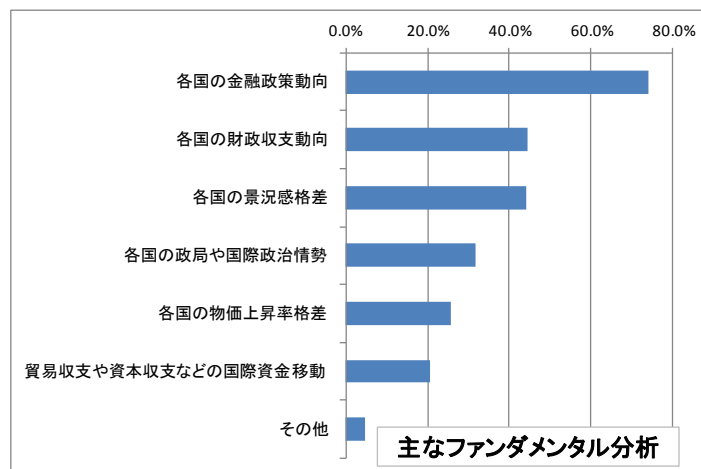
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.0%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が25.3%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が38.2%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.5%であった。調査開始以来、この回答割合に目立った変化は見られない。足元では、欧州債務問題に絡んでユーロが乱高下する場面も多々見られるが、FX投資家の分析スタイルはこうした相場環境などには左右されにくいようだ。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか？(いくつでも)**

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(73.9%)」と答えた割合が最も多く、「各国の財政収支動向(44.4%)」、「各国の景況感格差(44.1%)」、「各国の政局や国際政治情勢(31.8%)」、「各国の物価上昇率格差(25.6%)」の順に続いた。今回も「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割を超える回答割合を集めたが、「財政収支動向」に注目する割合も高止まりとなっている。欧州債務問題が顕在化し始めた2010年3月の第9回調査では「財政収支動向」に注目する割合は24.5%にとどまっていた。長引く欧州の債務懸念に加え、本邦でも財政赤字削減に向けて消費税増税の機運が高まっている事が「財政収支」に対する注目度を上昇させたと考えられる。

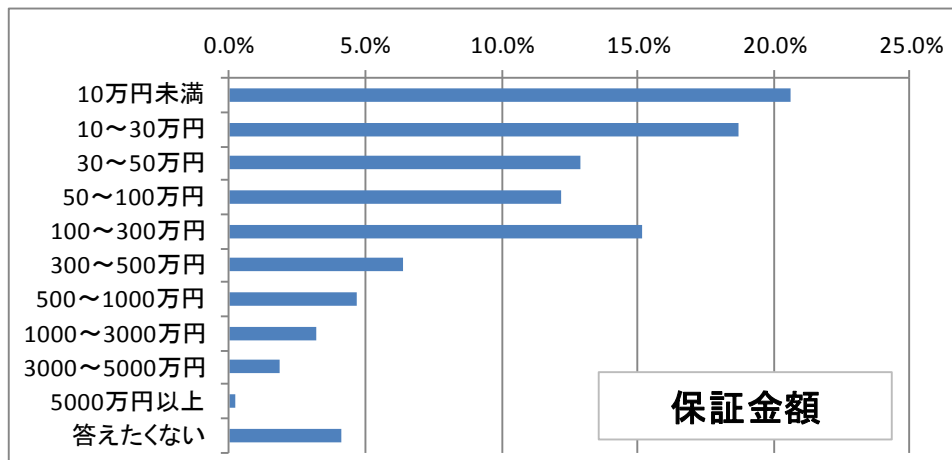


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

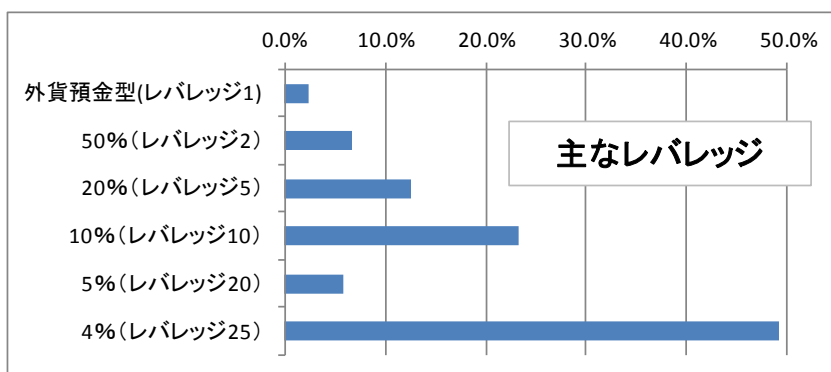
**問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)**

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が20.6%と最も多く、以下「10～30万円(18.7%)」、「100～300万円(15.2%)」、「30～50万円(12.9%)」、「50～100万円(12.2%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行う合算割合が64.4%と高く、小額の保証金で取引可能というFXの特性を良く表している。しかし、その一方で1000万円以上の合算割合も5.3%と前回調査の5.1%から小幅に増加しており、漸増傾向が続いている(調査開始以来の平均は2.6%)。レバレッジ規制の影響(建玉維持のために保証金を増やす)もあろうが、1998年にFX投資が本邦で解禁されて以来14年が経過する中で、投資戦略に自信を深めた投資家が保証金の増額に動き始めていると見ることも出来よう。



**問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)**

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が49.3%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.2%、「20%(レバレッジ5)」が12.5%と続き、以下、「50%(レバレッジ2)」が6.7%、「5%(レバレッジ20)」が5.8%と続いた。昨年8月のレバレッジ規制以降は、「4%(レバレッジ25)」が半数近くを占める傾向が続いており、規制されたとはいえ、高レバレッジというFX取引の最大のメリットのひとつを享受したいFX投資家が多い様子がうかがえる。FX投資家の中で最も人気の通貨ペアであるドル円の値動きが比較的小さい事も、最大のレバレッジを選択する要因になっているものと推測される。

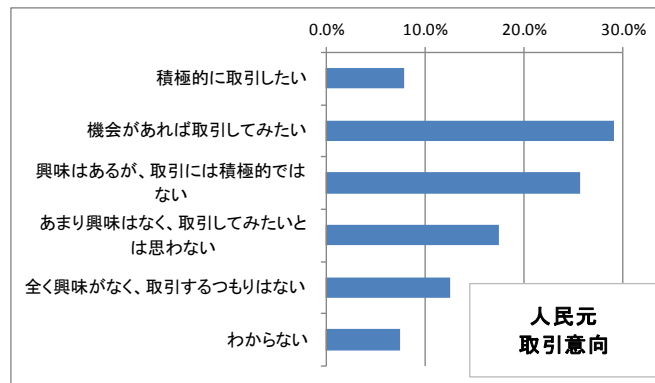


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

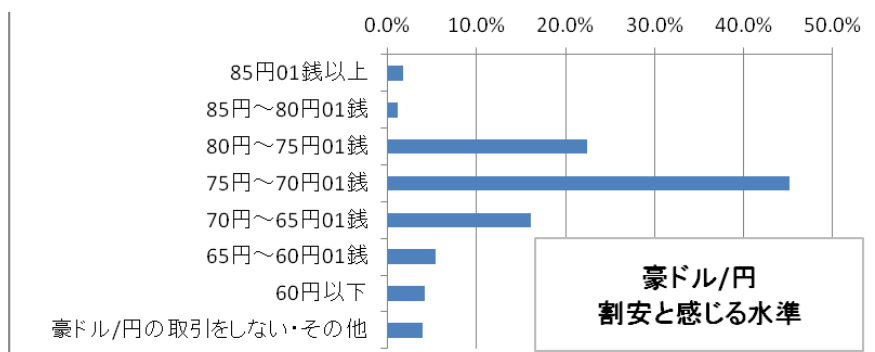
**問10: 2012年6月から円と人民元の直接取引が開始されました。人民元/円のFX取引についてご自身の考えともっとも近いものをお選びください(ひとつだけ)**

今月の特別質問項目として、2012年6月から円と人民元の直接取引が開始されました。人民元/円のFX取引についてご自身の考えともっとも近いものをお選びください(ひとつだけ)と尋ねたところ、「機会があれば取引してみたい」が29.0%、次いで「興味はあるが取引には積極的ではない」が25.7%となった。また、「積極的に取引したい」は7.9%にとどまり、「全く興味がなく、取引するつもりはない」が12.5%となった。また、その理由について自由記述形式で尋ねたところ、取引してみたいと答えた向きからは「中国の経済発展に伴い元高が見込める」との回答が多く、取引してみたいとは思わないと答えた向きからは「管理相場のため変動が小さい」「中国政府が信用できない」などが挙げられた。現段階では、人民元/円の取引に前向きな投資家は少数であり、今後の取引拡大のためには、変動相場制への移行や、当局が投資情報の開示などに努めて投資家の信頼を得る事が必要であろう。



**問11: 豪ドル/円が“割安”だと感じる水準をお答えください(ひとつだけ)**

今月のもう一つの特別質問項目として、豪ドル/円が“割安”だと感じる水準(買いポジションを持ちたいと思う水準)をお答えください(ひとつだけ)と尋ねたところ、「75円～70円01銭」と答えた割合が45.1%と最も多く、次いで「80円～75円01銭(22.5%)」、「70円～65円01銭(16.1%)」と続いた。調査期間中の豪ドル/円相場が79円前後で推移していた事を考えると、FX投資家はこの水準をそれほど割高とは感じていない事がわかる。また、75円を割り込めば押し目買い意欲が刺激され、逆張りの買いが増えるものと推測される。これまでの豪ドル/円の下落局面でも見られたように、FX投資家の買い意欲が下値を支える状況が当面は続きそうだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第37回目となりました。調査開始後3年が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2

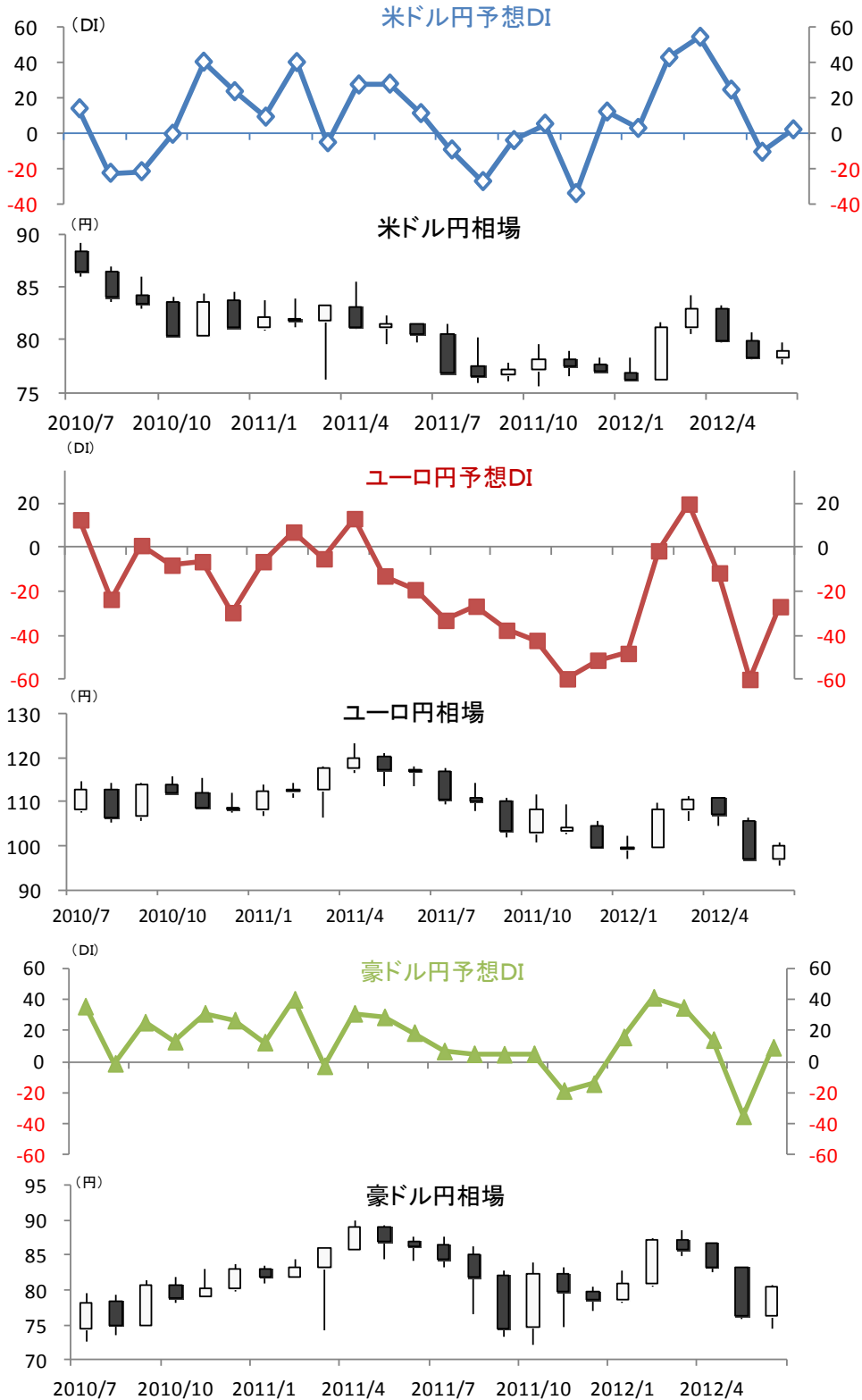
(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com